

「新型コロナウイルス禍が女性に及ぼす影響について」アンケート 結果

I 調査概要

1. 調査目的

新型コロナウイルスの感染拡大により、4月16日に緊急事態宣言が全国に拡大され、4月18日より栃木県が緊急事態措置となった。不要不急の外出自粛要請と併せて私たちの生活に大きな影響を及ぼした。5月6日、栃木県の緊急事態措置は解除され、新しい生活様式を取り入れながらの日常生活が始まったが、未だコロナ感染症の収束の兆しはみえず、今後も続くことが予想される。コロナ禍は、あらゆる人に影響を与えるが、女性に及ぼす影響のリスクが高いといわれている。

そこで、新型コロナウイルス禍が栃木県女性に及ぼす影響について実態を把握するため、アンケートを実施した。

2. 調査方法

Web調査

3. 調査期間

令和2年10月10日（土）～令和2年10月26日（月）

4. 対象

栃木県内在住の女性

5. 回答者

493名（WEB回答454人、アンケート用紙回答39人）

6. 実施者・協力機関

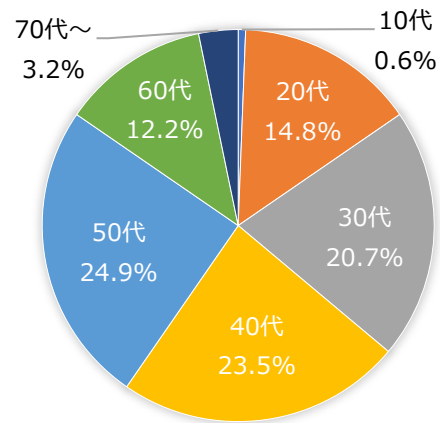
実施者：宇都宮大学ダイバーシティ研究環境推進本部 特任助教 川面充子

協力機関：栃木県、公益財団法人とちぎ男女共同参画財団、栃木労働局雇用環境・均等室

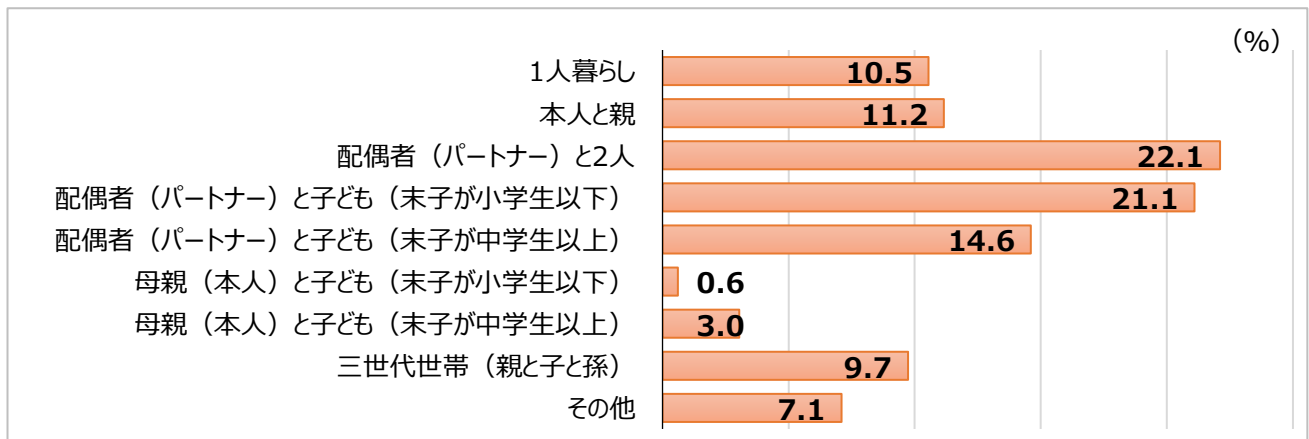
II 回答者の属性

Q 1 : 年代

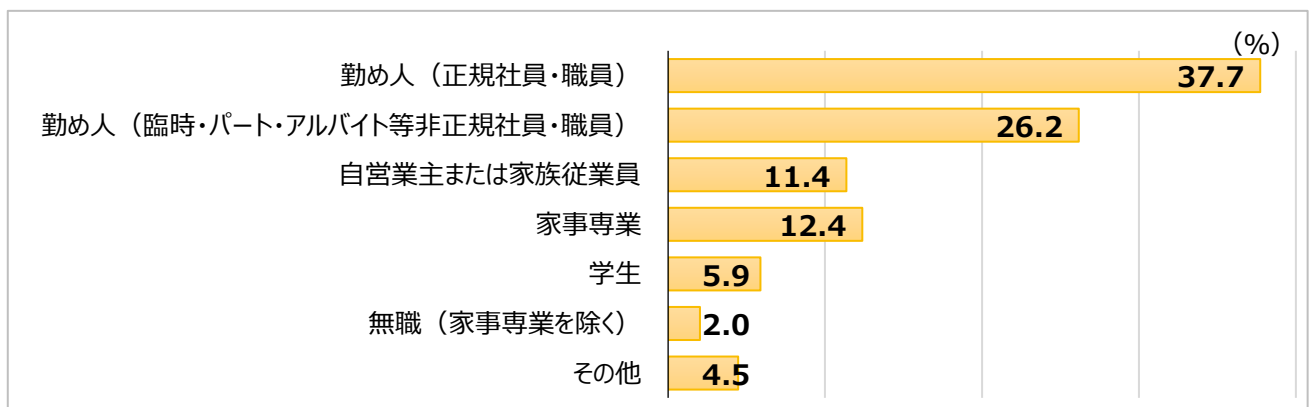
	回答数	%
10代	3	0.6
20代	73	14.8
30代	102	20.7
40代	116	23.5
50代	123	24.9
60代	60	12.2
70代～	16	3.2
計	493	100.0



Q 2 : 家族形態



Q 3 : 職業



※以下、Q3の設問「勤め人（正規社員・職員）」は「正社員」、「勤め人（臨時・パート・アルバイト等非正規社員・職員）」は「非正規」、「自営業主または家族従業員」は「自営業」と表記。

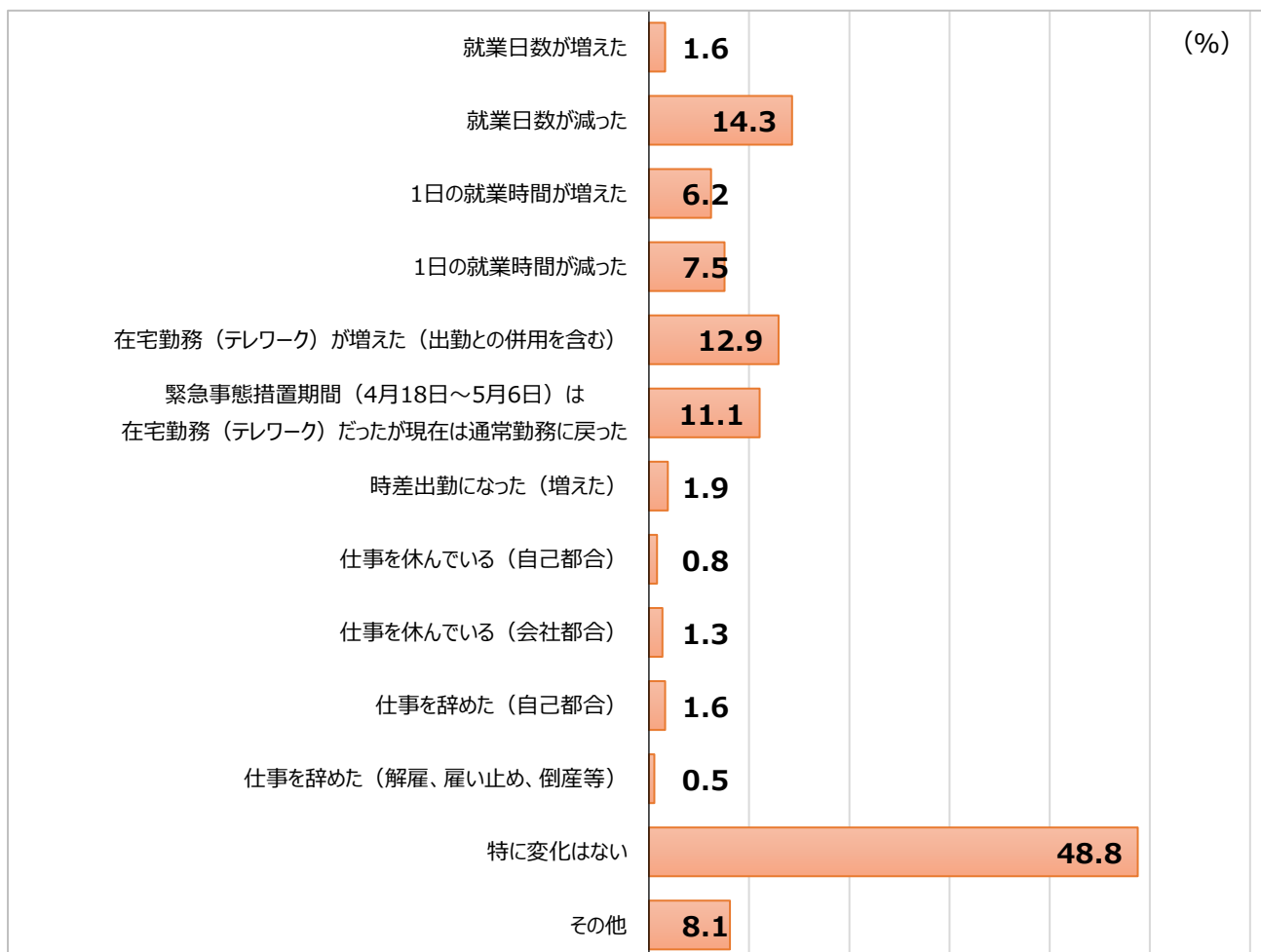
Ⅲ 調査結果

【働き方の変化】

Q 4 : コロナ禍前と現在を比較し、新型コロナウイルスの影響により働き方に変化はありましたか。

【複数回答可】

※Q3で職業を「正社員」「非正規」「自営業」と回答した人の回答



Q3で職業を「正社員」「非正規」「自営業」と回答した人の回答した人に働き方の変化をたずねたところ、「特に変化はない」が48.8%と最も多く、「就業日数が減った」が14.3%、「在宅勤務が増えた」が12.9%と続いている。

[Q4]働き方の変化×[Q 3]職業

※サンプルデータが少ない場合は参考値とする

	就業日数が増えた	就業日数が減った	1日の就業時間が増えた	1日の就業時間が減った	在宅勤務が増えた	緊急事態措置期間は在宅勤務だったが現在は通常勤務に戻った	時差出勤になった	仕事を休んでいる（自己都合）	仕事を休んでいる（会社都合）	仕事を辞めた（自己都合）	仕事を辞めた（会社都合）	特に変化はない	その他
正社員	1.1%	8.6%	7.0%	4.3%	19.4%	14.5%	3.8%	1.6%	0.5%	0.5%	-	50.5%	7.0%
非正規	1.6%	17.1%	7.0%	7.0%	3.9%	7.0%	-	-	1.6%	3.9%	0.8%	53.5%	7.0%
自営業	3.6%	26.8%	1.8%	19.6%	12.5%	8.9%	-	-	3.6%	-	1.8%	32.1%	14.3%

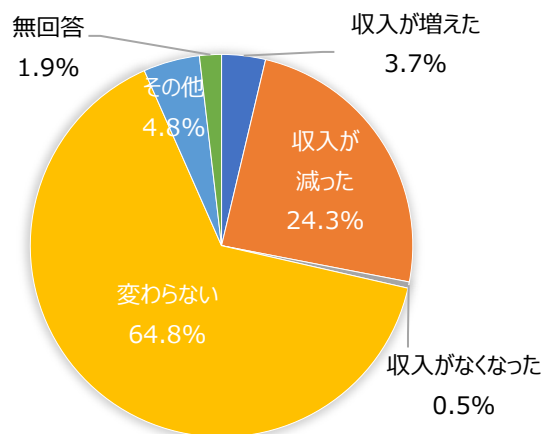
働き方の変化を職業別にみると、「在宅勤務が増えた」とした「正社員」は19.4%に対し、「非正規」は3.9%と正社員の5分の1となっている。

【収入の変化】

Q 5 : コロナ禍前と現在とを比較し、収入に影響はありましたか。

※Q3で職業を「正社員」「非正規」「自営業」と回答した人の回答

	回答数	%
収入が増えた	14	3.7
収入が減った	92	24.3
収入がなくなった	2	0.5
変わらない	245	64.8
その他	18	4.8
無回答	7	1.9
計	378	100.0



Q3で職業を「正社員」「非正規」「自営業」と回答した人に収入の変化をたずねたところ、「変わらない」が64.8%と最も多く、次いで「収入が減った」が24.3%と続いている。

[Q 5]収入の変化×[Q 3]職業

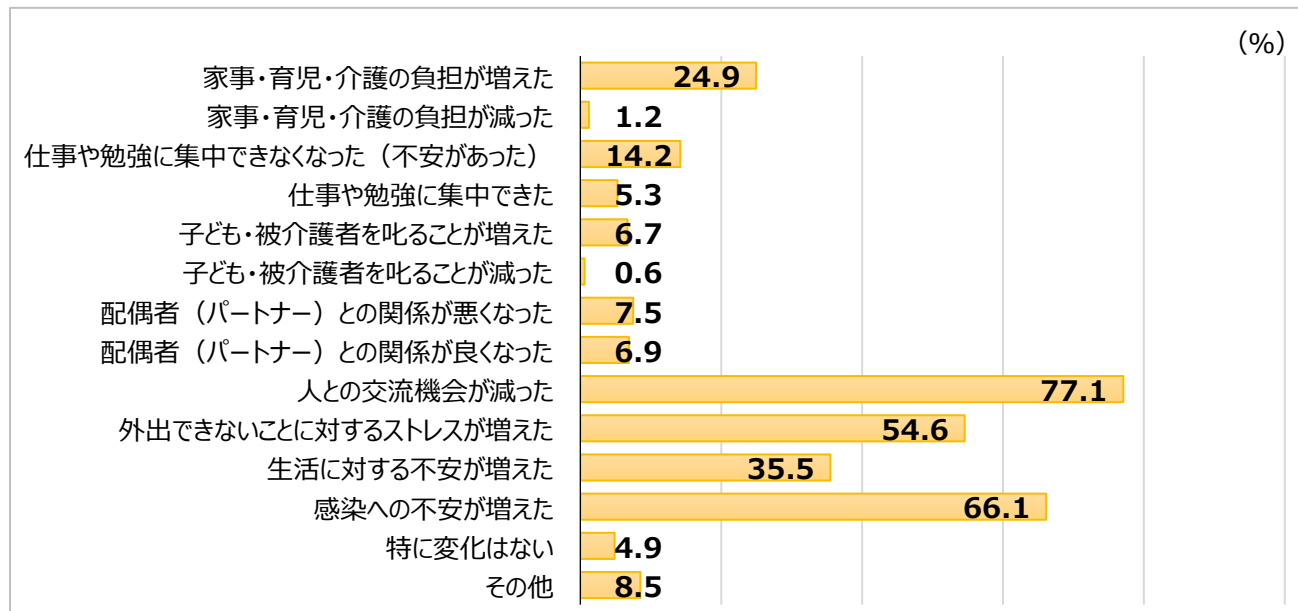
※サンプルデータが少ない場合は参考値とする

	収入が増えた	収入が減った	収入がなくなった	変わらない	その他	n=
正社員	2.7%	18.3%	-	75.3%	3.8%	186
非正規	6.2%	23.3%	0.8%	63.6%	6.2%	129
自営業	1.8%	5.0%	1.8%	41.1%	5.4%	56

収入の変化を職業別にみると、「正社員」では「変わらない」が75.3%と最も多く、「収入が減った」が18.3%であるのに対し、「非正規」では「変わらない」が63.6%と最も高いものの、「収入が減った」が23.3%と、正社員と比較して5.0ポイント高くなっている。また、自営業でも「変わらない」が41.1%と最も高く、「収入が減った」が5.0%となっている。

【緊急事態宣言中とコロナ禍前の生活等の変化】

Q 6 : 緊急事態措置期間（4月18日～5月6日）、コロナ禍前に比べ、あなたの生活や行動、心身に変化がありましたか。【複数回答可】



緊急事態宣言中とコロナ禍前の生活や行動、心身の変化をたずねたところ、「人との交流機会が減った」が77.1%と最も高く、「感染への不安が増えた」が66.1%、「外出できないことに対するストレスが増えた」54.6%と続いている。

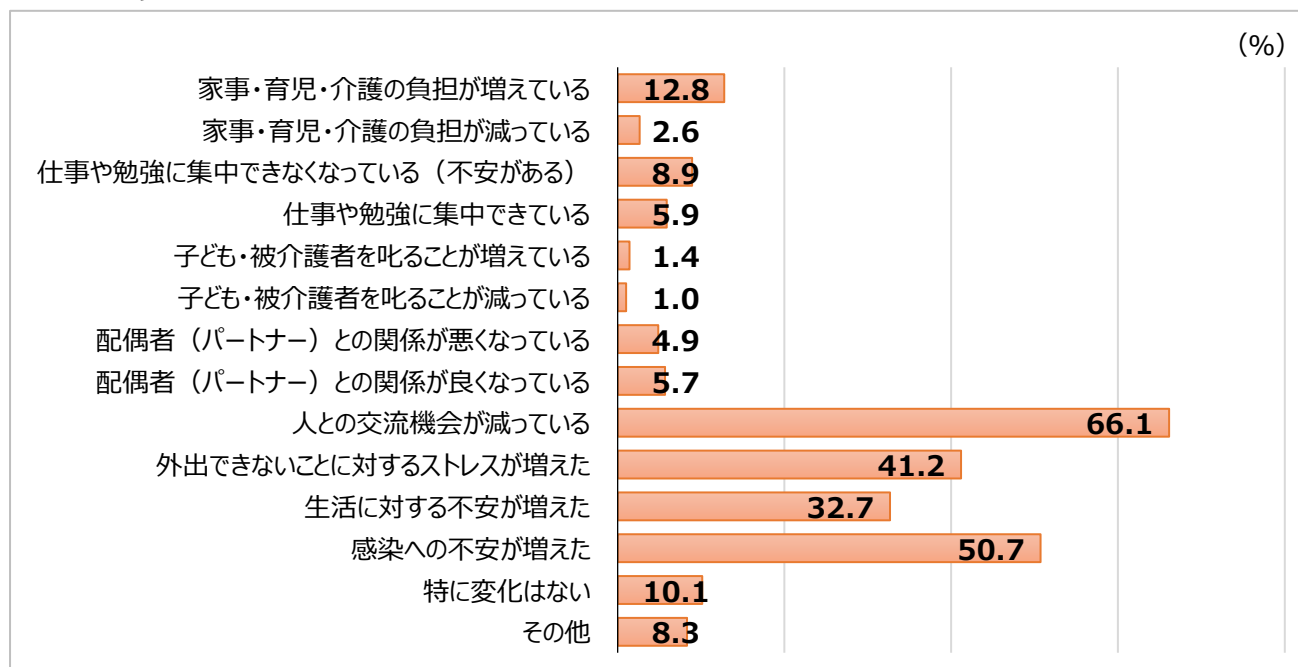
[Q6] 緊急事態宣言中の変化×[Q1]年代・[Q2]家族形態 ※サンプルデータが少ない場合は参考値とする

	家事・育児・介護の負担が増えた	家事・育児・介護の負担が減った	仕事や勉強に集中できなくなった	仕事や勉強に集中できた	子ども・被介護者を叱ることが増えた	子ども・被介護者を叱ることが減った	配偶者との関係が悪くなった	配偶者との関係が良くなった	人との交流機会が減った	外出できないことに対するストレスが増えた	生活に対する不安が増えた	感染への不安が増えた	特に変化はない	その他	n=
10代	-	33.3%	-	33.3%	-	-	-	-	66.7%		33.3%		-	-	3
20代	5.5%	1.4%	20.5%	11.0%	-	-	2.7%	6.8%	79.5%	69.9%	37.0%	60.3%	8.2%	1.4%	73
30代	33.3%	1.0%	14.7%	2.9%	11.8%	-	9.8%	4.9%	76.5%	60.8%	34.3%	66.7%	2.9%	10.8%	102
40代	44.8%	0.9%	18.1%	1.7%	17.2%	1.7%	12.9%	4.3%	77.6%	54.3%	40.5%	72.4%	1.7%	6.0%	116
50代	17.9%	0.8%	11.4%	9.8%	-	0.8%	2.4%	12.2%	78.0%	49.6%	38.2%	69.9%	3.3%	13.8%	123
60代	15.0%	1.7%	5.0%	-	1.7%	-	11.7%	5.0%	73.3%	36.7%	28.3%	55.0%	11.7%	10.0%	60
70代以上	12.5%	-	12.5%	-	-	-	-	6.3%	75.0%	43.8%	6.3%	5.0%	12.5%	-	16
1人暮らし	3.8%	1.9%	21.2%	13.5%	-	-	5.8%	3.8%	82.7%	53.8%	40.4%	61.5%	5.8%	11.5%	52
本人と親	10.9%	-	18.2%	7.3%	-	-	1.8%	1.8%	72.7%	6.0%	36.4%	67.3%	9.1%	1.8%	55
配偶者と2人	11.0%	1.8%	11.9%	3.7%	-	-	6.4%	11.0%	79.8%	52.3%	28.4%	66.1%	6.4%	11.9%	109
配偶者と末子小学生以下	54.8%	1.9%	12.5%	1.0%	23.1%	1.9%	18.3%	5.8%	75.0%	61.5%	31.7%	68.3%	1.9%	9.6%	104
配偶者と末子中学生以上	31.9%	-	12.5%	6.9%	5.6%	-	4.2%	6.9%	79.2%	43.1%	37.5%	70.8%	4.2%	4.2%	72
母親と末子が小学生以下	33.3%	-	33.3%	-	-	-	-	-		66.7%	66.7%		-	-	3
母親と末子が中学生以上	13.3%	-	6.7%	6.7%	-	6.7%	-	-	8.0%	26.7%	26.7%	66.7%	-	-	15
三世代世帯	29.2%	-	18.8%	6.3%	8.3%	-	6.3%	2.1%	75.0%	62.5%	47.9%	68.8%	2.1%	4.2%	48
その他	17.1%	2.9%	8.6%	2.9%	2.9%	-	2.9%	2.0%	68.6%	57.1%	4.0%	48.6%	8.6%	2.0%	35

年代別にみると、「人との交流機会が減った」という回答がすべての年代で最も高くなっている。家族形態別にみると、「家事・育児・介護の負担が増えた」と回答した「配偶者と末子小学生以下」が54.8%と最も高くなっている。

【現在とコロナ禍前の生活等の変化】

Q 7 : 現在、新型コロナウイルスの影響で、コロナ禍前に比べ、あなたの生活や行動、心身に変化がありましたか。【複数回答可】



現在とコロナ禍前の生活や行動、心身の変化をたずねたところ、「人との交流機会が減った」が66.1%と最も高く、「感染への不安が増えた」が50.7%、「外出できないことに対するストレスが増えた」が41.2%と続いている。

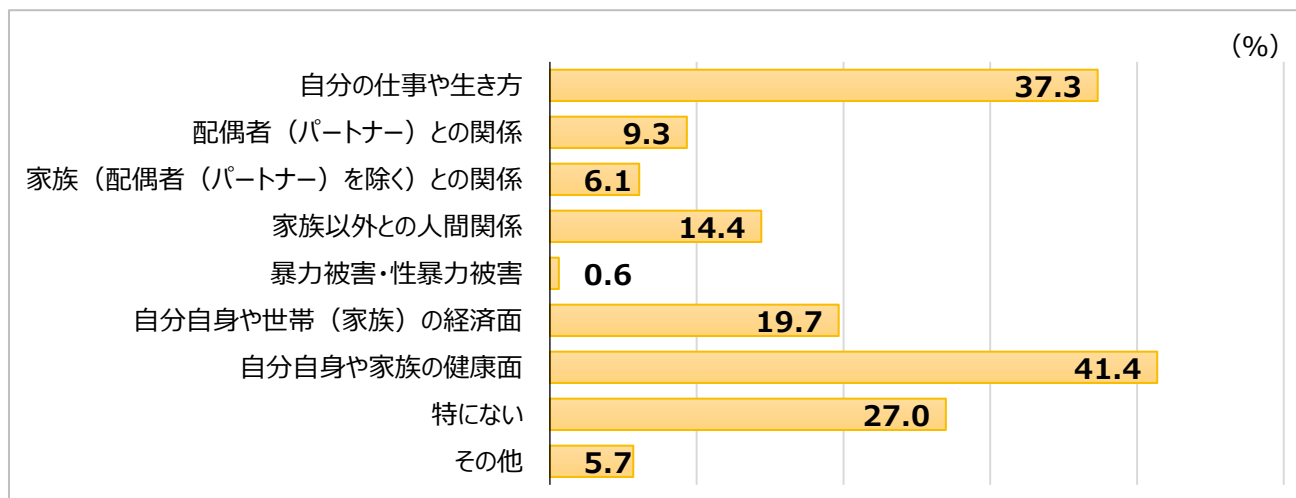
[Q6] 現在とコロナ禍前の変化×[Q1]年代・[Q2]家族形態 ※サンプルデータが少ない場合は参考値とする

	家事・育児・介護の負担が増えた	家事・育児・介護の負担が減った	仕事や勉強に集中できなくなった	仕事や勉強に集中できた	子ども・被介護者を叱ることが増えた	子ども・被介護者を叱ることが減った	配偶者との関係が悪くなった	配偶者との関係が良くなった	人との交流機会が減った	外出できないことに対するストレスが増えた	生活に対する不安が増えた	感染への不安が増えた	特に変化はない	その他	n=
10代	33.3%	-	33.3%	33.3%	-	-	-	-	-	33.3%	33.3%	66.7%	-	-	3
20代	1.4%	1.4%	13.7%	6.8%	-	-	1.4%	8.2%	60.3%	42.5%	34.2%	41.1%	16.4%	5.5%	73
30代	8.8%	6.9%	6.9%	7.8%	2.9%	1.0%	4.9%	5.9%	53.9%	46.1%	22.5%	39.2%	12.7%	10.8%	102
40代	24.1%	2.6%	13.8%	4.3%	3.4%	3.4%	8.6%	4.3%	73.3%	43.1%	43.1%	54.3%	4.3%	8.6%	116
50代	10.6%	1.6%	6.5%	7.3%	-	-	2.4%	8.9%	75.6%	39.8%	34.1%	61.0%	6.5%	10.6%	123
60代	15.0%	-	3.3%	1.7%	-	-	8.3%	-	66.7%	31.7%	26.7%	55.0%	13.3%	5.0%	60
70代以上	12.5%	-	-	-	-	-	-	-	56.3%	37.5%	25.0%	43.8%	25.0%	-	16
1人暮らし	5.8%	-	13.5%	11.5%	-	-	1.9%	1.9%	63.5%	38.5%	38.5%	46.2%	9.6%	15.4%	52
本人と親	7.3%	-	10.9%	5.5%	-	-	1.8%	-	65.5%	49.1%	38.2%	43.6%	16.4%	3.6%	55
配偶者と2人	8.3%	2.8%	5.5%	2.8%	-	-	8.3%	7.3%	64.2%	37.6%	29.4%	56.0%	11.0%	5.5%	109
配偶者と末子小学生以下	20.2%	4.8%	10.6%	6.7%	5.8%	2.9%	7.7%	8.7%	63.5%	43.3%	23.1%	41.3%	9.6%	10.6%	104
配偶者と末子中学生以上	15.3%	2.8%	6.9%	5.6%	1.4%	1.4%	4.2%	4.2%	76.4%	29.2%	33.3%	59.7%	6.9%	8.3%	72
母親と末子が小学生以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3%	66.7%	66.7%	-	-	3
母親と末子が中学生以上	6.7%	-	-	6.7%	-	-	-	-	66.7%	4.0%	26.7%	66.7%	6.7%	-	15
三世代世帯	20.8%	4.2%	12.5%	8.3%	-	2.1%	4.2%	2.1%	58.3%	56.3%	41.7%	54.2%	8.3%	6.3%	48
その他	11.4%	2.9%	8.6%	2.9%	-	-	-	17.1%	71.4%	42.9%	4.0%	48.6%	11.4%	14.3%	35

年代でみると、いずれの年代も「人との交流機会が減った」が最も高く、次いで20代、30代は「外出できないことに対するストレスが増えた」であり、40代、50代、60代、70代以上は「感染への不安が増えた」となっている。

【今、困っていること】

Q 8 : 今、困っていることは何ですか。【複数回答可】



今、困っていることをたずねたところ、「自分自身や家族の健康面」が 41.4%と最も高く、「自分の仕事や生き方」が 37.3%、「特にない」が 27.0%と続いている。

[Q8]困っていること×[Q 1]年代・[Q2]家族形態・[Q3]職業 ※サンプルデータが少ない場合は参考値とする

	自分の仕事や生き方	配偶者との関係	家族（配偶者を除く）との関係	家族以外との人間関係	暴力被害・性暴力被害	自分自身や世帯の経済面	自分自身や家族の健康面	特にない	その他	n=
10代	66.7%	-	33.3%	-	-	33.3%	33.3%	33.3%	-	3
20代	52.1%	9.6%	4.1%	21.9%	-	15.1%	27.4%	27.4%	1.4%	73
30代	39.2%	5.9%	2.9%	12.7%	1.0%	24.5%	37.3%	28.4%	5.9%	102
40代	45.7%	15.5%	6.0%	9.5%	-	27.6%	42.2%	20.7%	8.6%	116
50代	31.7%	8.1%	8.9%	16.3%	1.6%	17.9%	49.6%	26.0%	6.5%	123
60代	18.3%	8.3%	6.7%	16.7%	-	1-	45.0%	33.3%	3.3%	60
70代以上	6.3%	-	6.3%	6.3%	-	-	5.0%	43.8%	6.3%	16
1人暮らし	5.0%	7.7%	9.6%	23.1%	-	21.2%	38.5%	23.1%	3.8%	52
本人と親	58.2%	3.6%	5.5%	25.5%	-	12.7%	34.5%	27.3%	-	55
配偶者と2人	23.9%	11.0%	5.5%	14.7%	0.9%	15.6%	43.1%	36.7%	5.5%	109
配偶者と末子小学生以下	43.3%	11.5%	2.9%	12.5%	1.9%	19.2%	37.5%	21.2%	3.8%	104
配偶者と末子中学生以上	33.3%	2.8%	2.8%	13.9%	-	23.6%	44.4%	25.0%	6.9%	72
母親と末子が小学生以下	33.3%	33.3%	33.3%	66.7%	-	66.7%	66.7%	33.3%	-	3
母親と末子が中学生以上	13.3%	2.0%	-	-	-	33.3%	6.0%	26.7%	13.3%	15
三世代世帯	29.2%	6.3%	8.3%	6.3%	-	22.9%	45.8%	25.0%	12.5%	48
その他	4.0%	2.0%	17.1%	2.9%	-	2.0%	4.0%	25.7%	8.6%	35

年代別にみると、20 代、30 代、40 代は「自分の仕事や生き方」が最も高く、次いで「自分自身や家族の健康面」となっている。50 代、60 代は「自分自身や家族の健康面」が最も高くなっている。

[Q8]困っていること×[Q3]職業・[Q5]収入

※サンプルデータが少ない場合は参考値とする

	自分の仕事や生き方	配偶者との関係	家族（配偶者を除く）との関係	家族以外との人間関係	暴力被害・性暴力被害	自分自身や世帯の経済面	自分自身や家族の健康面	特になし	その他	n=
正社員	41.9%	9.7%	4.8%	16.1%	0.5%	18.3%	39.8%	24.2%	5.4%	186
非正規	38.8%	8.5%	6.2%	10.9%	-	22.5%	41.1%	30.2%	7.0%	129
自営業	30.4%	7.1%	5.4%	10.7%	1.8%	25.0%	39.3%	23.2%	10.7%	56
家事専業	24.6%	14.8%	9.8%	16.4%	1.6%	18.0%	50.8%	27.9%	3.3%	61
学生	48.3%	-	3.4%	20.7%	-	6.9%	27.6%	31.0%	-	29
無職（家事専業を除く）	2.0%	1.0%	3.0%	4.0%	-	4.0%	7.0%	3.0%	-	10
その他	36.4%	13.6%	-	4.5%	-	13.6%	40.9%	31.8%	4.5%	22
収入が増えた	42.9%	7.1%	-	28.6%	-	14.3%	28.6%	28.6%	7.1%	
収入が減った	46.7%	13.0%	8.7%	18.5%	1.1%	34.8%	48.9%	9.8%	8.7%	92
収入がなくなった	5.0%	-	-	5.0%	-			-	-	2
変わらない	34.7%	6.9%	4.9%	11.4%	0.4%	16.3%	37.1%	31.8%	5.7%	245
その他	55.6%	16.7%	-	-	-	5.6%	38.9%	33.3%	11.1%	18

収入の変化で困っていることをみると、収入が減ったは「自分自身や家族の健康面」が48.9%と収入が増えた28.6%よりも高くなっている。

補足：その他（自由回答）の内訳

◇本人の仕事や生活に関すること 7件

◇子ども、育児に関すること 5件

◇子ども以外の家族の健康（介護等）に関すること 4件

◇本人の健康に関すること 3件

◇人間関係（家族、その他）に関すること 3件

◇ライフイベント（結婚、妊活、妊娠等）に関すること 2件

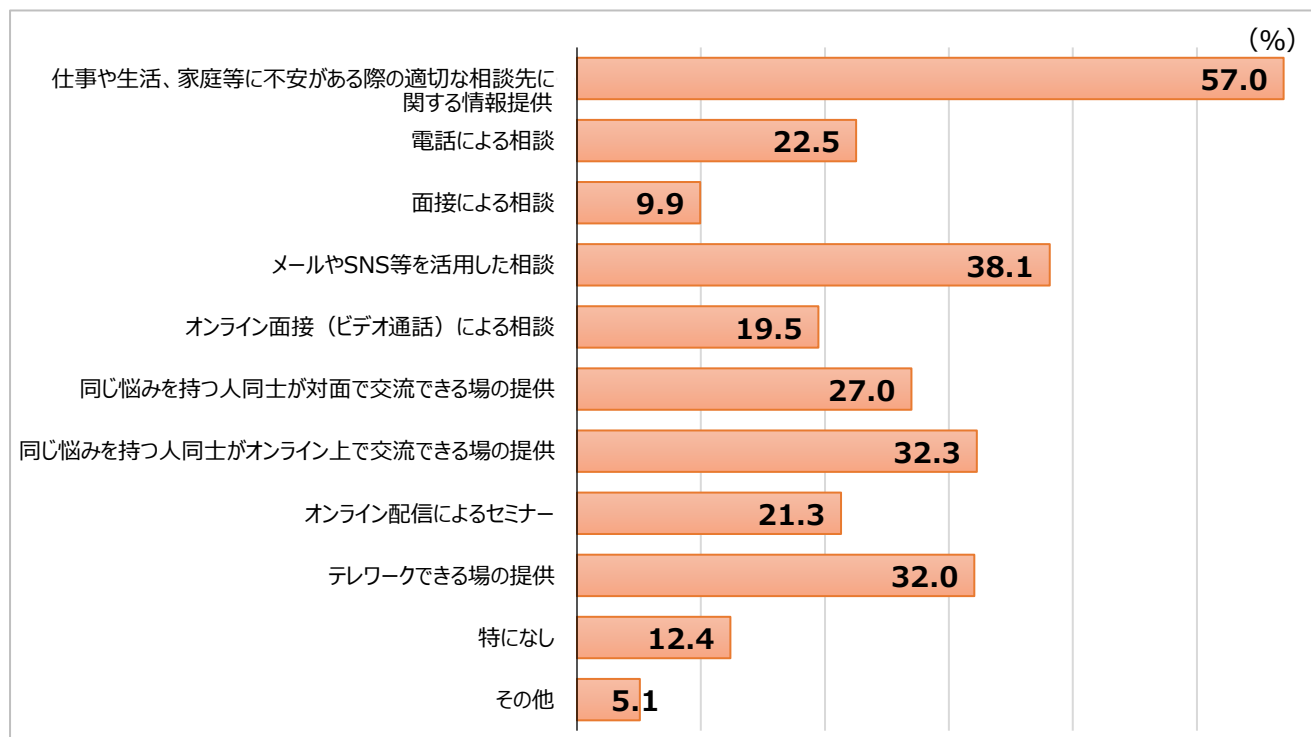
◇政治、経済、風潮に関すること 1件

◇職場環境、テレワークに関すること 1件

◇その他 2件

【女性に対する必要な支援施策】

Q 9 : コロナ禍の中、女性に対する支援としてどのような施策が必要と思われますか。【複数回答可】



女性に対する支援策としてどのような施策が必要かたずねたところ、「仕事や生活、家庭等に不安がある際の適切な相談先に関する情報提供」が57.0%と最も高く、「メールやSNS等を活用した相談」が38.1%、「同じ悩みを持つ人同士がオンライン上で交流できる場の提供」が32.3%、「テレワークできる場の提供」が32.0%と続いた。

[Q 9] 必要な支援策 × [Q 1] 年代・[Q 2] 家族形態・[Q 3] 職業 ※サンプルデータが少ない場合は参考値とする

	仕事や生活、家庭等に不安がある際の適切な相談先に関する情報提供	電話による相談	面接による相談	メールやSNS等を活用した相談	オンライン面接による相談	同じ悩みを持つ人同士が対面で交流できる場の提供	同じ悩みを持つ人同士がオンライン上で交流できる場の提供	オンライン配信によるセミナー	テレワークできる場の提供	特になし	その他	n=
10代	33.3%	-	-	66.7%	-	66.7%	33.3%	-	33.3%	33.3%	-	3
20代	54.8%	8.2%	8.2%	39.7%	15.1%	21.9%	31.5%	13.7%	35.6%	12.3%	4.1%	73
30代	49.0%	14.7%	3.9%	34.3%	22.5%	27.5%	43.1%	29.4%	38.2%	10.8%	4.9%	102
40代	58.6%	24.1%	12.1%	39.7%	16.4%	27.6%	27.6%	21.6%	31.9%	12.9%	6.0%	116
50代	61.0%	31.7%	13.0%	39.8%	22.8%	27.6%	32.5%	22.8%	30.9%	13.0%	4.9%	123
60代	66.7%	35.0%	15.0%	4.0%	21.7%	31.7%	25.0%	18.3%	23.3%	6.7%	6.7%	60
70代以上	43.8%	12.5%	-	18.8%	12.5%	12.5%	25.0%	6.3%	18.8%	31.3%	-	16

年代別でみると、いずれの年代も「適切な相談先に関する情報提供」の回答が高く、60代は「電話による相談」が次いで高くなっている。30代は「オンライン上で交流できる場の提供」が43.1%、次いで、「テレワークできる場の提供」が38.2%と他の年代よりも高くなっている。

	仕事や生活、 家庭等に不安 がある際の適切 な相談先に関 する情報提供	電話による相談	面接による相談	メールやSNS等 を活用した相談	オンライン面接に よる相談	同じ悩みを持つ 人同士が対面 で交流できる場 の提供	同じ悩みを持つ 人同士がオンラ イン上で交流で きる場の提供	オンライン配信に よるセミナー	テレワークできる 場の提供	特になし	その他	n=
正社員	52.2%	15.1%	5.9%	39.8%	16.7%	26.9%	36.6%	21.5%	34.9%	10.8%	4.8%	186
非正規	62.8%	20.2%	7.8%	33.3%	19.4%	23.3%	21.7%	15.5%	32.6%	12.4%	5.4%	129
自営業	57.1%	35.7%	21.4%	46.4%	25.0%	35.7%	44.6%	32.1%	28.6%	14.3%	7.1%	56
家事専業	49.2%	27.9%	9.8%	31.1%	16.4%	26.2%	21.3%	13.1%	16.4%	19.7%	1.6%	61
学生	51.7%	6.9%	13.8%	34.5%	13.8%	34.5%	44.8%	24.1%	34.5%	13.8%	3.4%	29
無職（家事専業を除く）	8.0%	6.0%	2.0%	4.0%	2.0%	3.0%	3.0%	5.0%	2.0%	1.0%	2.0%	10
その他	81.8%	54.5%	18.2%	54.5%	45.5%	18.2%	40.9%	31.8%	59.1%	-	0.0%	22
1人暮らし	61.5%	13.5%	11.5%	40.4%	15.4%	32.7%	40.4%	17.3%	26.9%	15.4%	3.8%	52
本人と親	6.0%	10.9%	9.1%	38.2%	12.7%	23.6%	30.9%	16.4%	30.9%	10.9%	1.8%	55
配偶者と2人	56.9%	29.4%	12.8%	43.1%	25.7%	26.6%	33.0%	22.9%	36.7%	12.8%	5.5%	109
配偶者と末子小学生以下	49.0%	16.3%	3.8%	31.7%	16.3%	26.9%	35.6%	24.0%	32.7%	12.5%	7.7%	104
配偶者と末子中学生以上	54.2%	29.2%	9.7%	34.7%	16.7%	25.0%	19.4%	20.8%	27.8%	11.1%	2.8%	72
母親と末子が小学生以下	33.3%	-	-	33.3%	33.3%	33.3%	66.7%	33.3%	66.7%	33.3%	-	3
母親と末子が中学生以上	8.0%	4.0%	13.3%	33.3%	13.3%	26.7%	13.3%	6.7%	33.3%	6.7%	6.7%	15
三世代世帯	52.1%	27.1%	8.3%	41.7%	20.8%	25.0%	37.5%	31.3%	31.3%	14.6%	2.1%	48
その他	74.3%	25.7%	2.0%	42.9%	31.4%	31.4%	34.3%	14.3%	31.4%	8.6%	11.4%	35

職業別にみると、非正規は「適切な相談先に関する情報提供」が62.8%と最も高く、次いで自営業で57.1%となっている。また、自営業は「メールやSNS等を活用した相談」が46.4%、「オンライン上で交流できる場の提供」が44.6%、「対面で交流できる場の提供」が35.7%といずれも他の職業より高くなっている。

家族形態でみると、1人暮らしは「適切な相談先に関する情報提供」が61.5%と最も高くなっている。「テレワークできる場の提供」は配偶者と2人で36.7%と高くなっている。

補足：その他（自由回答）の内訳

- ◇生活保障、財政的支援に関すること 8件
- ◇悩みを共有・相談できる場や情報の提供、DV防止に関すること 4件
- ◇職業・転職支援に関すること 3件
- ◇テレワーク中・休校中の保育や子育て支援に関すること 2件
- ◇職場環境、テレワークの推進に関すること 1件
- ◇シングルマザー等への支援に関すること 1件
- ◇固定的性別役割分担意識の解消に関すること 1件
- ◇男性への支援、意識改革に関すること 1件
- ◇その他 4件

【ご意見】

Q 1 0 : 生活や仕事などのお困り事、その他ご意見等がありましたらご自由にお書きください。

【自由記述】

- ◇感染・健康不安に関すること 23件
- ◇職場環境、テレワーク推進に関すること 10件
- ◇政治・経済・風潮に関すること 10件
- ◇在宅ワーク・外出控え等によるストレスや不安に関すること 9件
- ◇子育て、保育に関すること 7件
- ◇相談事業に関すること 7件
- ◇職業・転職に関すること 7件
- ◇生活保障、財政的支援に関すること 5件
- ◇ワンオペ、固定的性別役割分担意識の解消に関すること 5件
- ◇介護に関すること 4件
- ◇ライフイベント（結婚、妊活、妊娠等）に関すること 2件
- ◇情報発信に関すること 1件
- ◇その他 11件

自由回答で寄せられたご意見

【感染・健康不安に関すること】

- ・運動に関する教室や大会・イベントが中止となっており、体力が落ちることにより、コロナのリスクや重症度にも影響してくるのでは、また他の病気のリスクが高くなるのではと心配しています。女性は家庭内の中心であり、身体的&精神的にも健康な状態でなければなりません。（50代・非正規）
- ・私自身が現在困っていることはありませんが、万一私や家族がコロナ感染した場合の、誹謗中傷が怖いです。（40代・正社員）
- ・重いものを持ちたり、運動しているように動く中、マスクが外せないの、疲労がたまりやすい。（50代・非正規）
- ・コロナに対する温度差に困っています。私自身はコロナに対してとても警戒心を持っていますが、配偶者や職場の同僚、子供の友達家族では、さほど警戒しない方も多いです。その温度差によって意見が割れたり仲違いになっている点に困っています。（30代・正社員）
- ・コロナの収束が見えないなか、これからはコロナとうまく共存していく方法を考えるべきと思う。（70代・家事専業）
- ・収入が3分1の以下になったことが原因なのか心が荒んでいる。（30代・正社員）
- ・予防しながらの外出などは大丈夫だろうと思いつつも もし感染してしまったら職場、家族 また家族の職場と迷惑がかかると思うとストレスがある。（50代・非正規）
- ・人との接触で、うつしたりうつされたりが心配。（50代・その他）

- ・コロナについて、正確な情報を知りたいが、どれを信じていいのか？わからない時がある。いつになったら元の生活に戻るか？不安がある。（50代・自営業）
- ・現在介護職に就いている。もし職場で感染が出たら・・・もし私自身が感染したら・・・ 職を失うのではないかと、収入が減るのではないかと・・・近所の人からどう見られるか・・・不安でいっぱいである。これからどんな時代が来るのか、ついて行けるか、家族は仲良くやっていけるか、未知の事ばかりである。（60代・非正規）
- ・経済を回さなければならないのは理解出来ませんが、県外の観光客の増加で感染が不安です。（50代・家事専業）
- ・高齢になって、様々に鈍って、考えたり、判断したりが出来なくなってきました。相談すら出来なくなって、はたして、日常的に生活出来るか、心配です。（60代・正社員）
- ・感染者が多い地域に住んでいるので、若くはないし、持病もあり感染して症状が酷くならないか心配です。（50代・家事専業）
- ・コロナ対策で職場でいろいろな対策に対する仕事が増えて気を使う事柄が家庭でも職場でも増えて精神的に圧迫を感じる。（50代・正社員）
- ・ウイルスに対する不安がある。子どもの成長の不安。保育園幼稚園の相談もしたいが、どうすべきなのか、判断できない。自分が決めきれない。相談機関に出向く勇気がでない。電話が苦手。対面でやりたいがウイルスが怖い。（30代・家事専業）
- ・子どもの習い事の仕事をしています。着席でのレッスンで1～6人のグループレッスンですが、感染対策によって距離をとった座席配置になり、その分インストラクターが動く事が多くなり、より体力仕事になりとてもキツイ仕事になってしまいました。それにも関わらず給与は下がってしまいました。また、過労が原因かは不明ですが、先月脳に異常(脳浮腫)も見付き、不安な生活をしています。（30代・非正規）
- ・小さい子どもの感染対策。（30代・家事専業I）
- ・マスクが息苦しい。肌荒れを起こすようになった。マスクや消毒をしない人が会社に入ってくるという。必要以上に神経質になった。ストレスがたまようになった。（40代・正社員）
- ・新型コロナウイルス感染対策をして仕事をしているので、常に気が抜けない。リラックスできていない。（40代・正社員）
- ・職場での感染対策、予防が心配で、外出の機会が減っている。自宅でも病人が居るため、買い物に行くにも神経質になり、必要以上に対策をしてしまう。趣味にも影響がある為、自分の気づかないところでストレスになっていると感じる。先が見えない為、余計に不安である。自分だけでは無い、仕方ないことと分かっている、ストレスを感じる。その中で小さな幸せなことをみつけ、何とか自分を保つ努力をしている。（40代・正社員）
- ・go toキャンペーンが始まっているが、感染リスクを考えると行けない。（家族（同居）に虚弱な高齢者がいるため）（50代・非正規）

【職場環境、テレワーク推進に関すること】

- ・職場は緊急事態措置期間は交替制の在宅勤務でしたが、今は通常業務に戻った。在宅勤務といっても、パソコン作業はセキュリティの関係で家でできなかったの、対策を進めてほしい。今後も介護等で在宅勤務ができるように備えるべき。（ハンコ文化も早急に無くすべき）（40代・正社員）
- ・仕事が今後も続けられるのか、会社が倒産したり、経営不振で解雇されたりしないか不安です。（30代・正社員）
- ・営業員はノートパソコンが与えられており、テレワーク勤務が可能だが事務員はデスクトップPCの為、テレワークができ

ない。また、会社がテレワークなどリモートに対し批判的、消極的なため、選択の余地すらなく今後が不安である。

（40代・正社員）

- ・現在妊娠11週です。先日社内の労働組合で妊婦へテレワーク積極的容認と書いてありましたが、紙が配られただけで周囲から何も助言も周知徹底ありません。自ら上司に相談したいが、仕事の効率性を考えると出社を優先してしまうのが本音です。しかしコロナは妊婦へのリスクが高いと一部では言われていますがクローズアップされていないので不安な気持ちを表に出せていないため困っています。（20代・正社員）
- ・人材不足で企業と労働者のパワーバランスがやっと逆点したと思ったのに、また逆戻り……。人材の流動性が無くなって、労働者は嫌でも会社を辞めづらくなってしまった。。。今が会社の真意が問われる時。だけど現実、出社をさせてなんぼ、の会社ばかり。（栃木の田舎では特に。）溜息がでる……。私自身は、理解ある会社に身を置くので恵まれているが、この日本の悪しき習慣を変えたいと切に願う。（40代・正社員）
- ・住宅事情から起こる家族間の問題は、テレワークができる場を増やすことが1番早い。Wi-Fi 設備投資に補助金をすぐに出すこと、そして密にならない環境でそこそこの人的交流を創り出すことをすべき。（50代・正社員）
- ・公務員です。行政職員の意識改革と、人材育成の行政改革を望みます。（50代・非正規）
- ・PCを持ち出せないことで、緊急事態宣言時も在宅ワークをさせてもらえなかった。周囲の会社は対応していたので、事態が悪化したらうちの会社はどう対応するのかますます不安になった。（40代・正社員）
- ・新しい生活様式、リモート、感染予防対策をするというが、変化のない仕事環境であるのが現実。（20代・正社員）
- ・家事負担啓発は、職場での社会貢献啓発と共に行うことで、就労中・退職後の社会参加、家族との関係改善が図れるとともに、健康増進、認知症対策になる。また社会貢献者を増やすことで企業のイメージUPも図れると思う。一部の企業では既に退職後のセミナーなどを開いているが、テレワークと共にオンライン受講を推進する良いチャンスであると思う。（50代・自営業）

【政治・経済・風潮に関すること】

- ・突然の休校は、子育て当事者でない政治家の判断でした。もっと政策の場に子育て当事者を増やさなくてはと思った。特に、小さいお子さんをお持ちのママたちは、子育てと在宅勤務で大きな負担だったと思う。（40代・正社員）
- ・コロナ前とほぼ同じ経済的な見通しがつく人と 三密に絡んで仕事が、前年比90%ダウンの人もある。はっきり言って去年の所得税ゼロにしてもらっても、会社経営が立ち行かないのに、誰の未来に対して納税するのかと思うほど。その位の状況に生きている人は、かなりの数にのぼります。給付金で当分生きていけると思う方が間違い。（50代・非正規）
- ・上に立つ、上司、行政、、、信じられるものがない。自分自身、健康に気をつけ 家族を中心に守りながらの生活を維持する。これを基本に、毎日を生きるしかないと思っています。（50代・非正規）
- ・社会弱者に対する支援の停滞。（50代・その他）
- ・今回離婚して家を出るということを実行する場合に、一旦家庭に入った女性が自立する際に活用できる金融のプラットフォームが皆無であることに気づきました。母子家庭であればあるが独身になる場合は皆無です。それは、今までの偏った家庭像に制度が合わせられていたかと思いますので、もっと柔軟性が必要かと思いました。（40代・自営業）
- ・税金等、無駄なく的確に使ってほしい。（50代・非正規）
- ・非常事態時や経済が低迷すると、そのしわ寄せが弱者にくる。今はまさにその状態にあると思う。このまま女性活躍推

進も終わってしまうのではないかと不安。(50代・正社員)

- ・世の中がおかしくなり、人もおかしくなっている。いろいろなことで変化が求められ、ついていけない。世の中の改善が急務。(50代・無職)
- ・福祉施設勤務で、緊急事態宣言中とそう変わらない生活をしている。友人たちとも半年以上全く会っていない。それは仕事上仕方がないことで、なにがストレスかというと、ワクチンも治療法も確立しない中、政府やテレビがGOTOゴリ押しして結果感染が広がっていること。旅行協会に政府の強い人がいるからだろうけど。(30代・正社員)
- ・オンライン化に向けて、個人と自治体の意識が違ふこと。今後、世界基準で意識が合っていればいいと思う。(50代・自営業)

【生活保障、財政的支援に関すること】

- ・専門的(介護や看護、保育)職場職員に精神的ケアがあるといいなと思います。介護であれば10年働いた人に最大8万円給料が増えるとありますが、10年は永いなと思います。若い人が永く仕事を続けられるようになれる精神的ケアや金銭的ケアがあるといいなと思います。(20代・正社員)
- ・うちは、2人共一人暮らしで大学生がいます。大学生がいる家庭にもっと援助してもらいたい。(40代・非正規)
- ・万一感染してしまったら、その後の生活や仕事のケアをしてくれる所があるといい。(60代・非正規)
- ・コロナワクチンが全国民に行き渡り、コロナ収束の見通しが付くまで、特別定額給付金事業を第2段、第3段くらいまで実施して頂きたい。(60代・自営業)
- ・貧困に対する寄り添ったら支援が欲しいですね。(60代・無職)

【子育て、保育に関すること】

- ・コロナで夏休みの大学見学などができず、子どもの進路選択が定まらない。受験生をサポートする親の心理的負担は大きいと思われる。・高校生までは通常登校なのに、大学生はオンライン授業のみが多く、気の毒。(40代・正社員)
- ・大人の表情を読み取れなくなり、子ども(乳幼児)への将来的な影響が心配。(30代・正社員)
- ・ひとり親なので、緊急的な子供のあずけ先がない。(30代・正社員)
- ・自分に心や時間に余裕がないと、子供に当たってしまったり、人への寛容さが損なわれる気がする。お迎えに行ったら、寝かしつけるまでが超ハードなので、手が借りられるサービスが欲しい。(30代・正社員)
- ・子供達の学費の工面に疲れが…。いつも、お金のやりくりを考えていてイライラしてしまう。(40代・正社員)
- ・我が子も含め、人との関わりが減り、マスク義務化も加わって、コミュニケーション能力が低下するのではないかと心配。(30代・正社員)
- ・病児保育を気軽に利用できるようにしてほしい。(30代・非正規)

【情報発信に関すること】

- ・コロナ禍は大規模災害と同様に、子育てや介護等のケア役割(女性が多い)の負担が大きい。隠れているDV被害者の支援を手厚くしなければならない。SNS相談の内容の報告が早めに出ると良いと思う。(40代・正社員)

【相談事業に関すること】

- ・子育て中の女性や独り暮らしの女性、高齢者のみの世帯、悩みを外に出せない環境にある方々の心身の変化等、詳細に把握できると良いと思います。 コロナ後の食生活の変化等もどのようになっているか分かれば心身への影響に関連してくると思います。(60代・その他)
- ・子どもへの親族などによる虐待が後を絶ちません。これ以上の子どもの犠牲者を出さないように早急に子育てや仕事などの相談窓口を少なくとも自治体ごとにつくり、気軽に立ち寄れる場所に設置してほしい。(60代・その他)
- ・学生でお金がないのに、税金に縛られて働けないのが辛いです。実家も裕福でなく、コロナの影響で父が転職したこともあり、自分で生活費をまかなう必要があります。税金について相談できるところが知りたいです。(20代・学生)
- ・90代の母の介護に不安があり相談したくても正当な答えしか返ってこないの、相談も諦めています。心の中を聞いてもらえる所があるといいなあとと思います。(50代・非正規)
- ・コロナの影響でうまく求人が出来ず、一人ですべての業務を行っており、有休も取りにくく、また私生活でも配偶者が単身赴任中のため、家事育児もすべて一人で行っているの、精神的にも体力的にも限界を感じています。人と話す機会が減っているので何か交流できる機会があれば精神的なストレスは軽減されるのではないかと思います。(40代・正社員)
- ・育休満了後に復職できないと会社から言われた場合の、会社以外の相談先など。(30代・正社員)
- ・配偶者の雇用状況などで、ピリピリする状態がある以上、家から出て生の声で安心して話を聞ける場所、言える場所が必要だと思うし、切にそのような場が複数あればいいと思っている(定期的に)。(50代・家事専業)

【ワンオペ、固定的性別役割分担意識の解消に関すること】

- ・夫婦共働きでも、収入差が家事・育児の量に反比例している現実を変えられない。夫の会社はテレワークを導入しているが、残業もあり、会議が夕方6時からという日も多く子どもの送り迎えを頼めるようでもない。女性の負担は、私たち世代はまだ多い。(40代・非正規)
- ・子育てに関しては、コロナ禍で全くサポートがなくなり学校などの預け先がないことはあり得ない。子育ては女性がするものではなく大人全員で社会が支えるものという実感が殆ど感じられない。困ったら母親に丸投げするのは本当にやめてほしい。(40代・家事専業)
- ・在宅勤務時、勤務中と思われず、配偶者から育児家事を任せられ、自分だけ出かけることがある。(40代・非正規)
- ・市独自の緊急措置があり、保育園から自主休園の願いがありました。その時に会社を休んで子供をみるのは母親という固定概念に憤りを感じました。幸い会社がテレワークや子連れ出勤可と環境を整えて下さったのでかろうじて仕事は出来ましたが、他の男性社員には何の影響もない事がとても不思議でした。制度というよりも男性の意識改革が遅れているのだと感じます。(40代・正社員)
- ・何かと家族の為に走り回っているが、感謝されない。当たり前のように出てくる食事に感謝されないなど、些細なストレスが積もっている女性はたくさん居ると思う。当たり前が当たり前じゃないこの世の中。ストレスで倒れないことを願います。(40代・非正規)

【ライフイベント（結婚、妊活、妊娠等）に関すること】

- ・妊活中だが、コロナのせいで病院に行きづらく、子供はなるべく早く欲しいけどいざできたらと考えると不安。(30代・正

社員)

- ・緊急事態宣言がされた頃、「濃厚接触禁止を全員が守ったら来年の出生率は0%になってしまう」と話しているのを聞いたとき、コロナ禍といわれる時期に芽吹いた命に対して偏った捉え方をする人もでてくるのだろうかと不安に思った。コロナ禍とはいえ、年齢的に今子作りに励むしかない人や縁あって子どもに恵まれた人、これから生まれてくる子どもたちが、不利益を被るような事がないように、必要な場合は支援してもらえそうな仕組みがあると良いと思う。今命を育むことは罪ではない、安心して産んでいいんだということを伝えてもらえると嬉しいし心強く感じる。(30代・非正規)

【在宅ワーク・外出控え等によるストレスや不安に関することと】

- ・経済的な不安は少ないが、在宅勤務が増えたことにより、外との接触を少なくなりました。友人との会話が少なくなったことで、不安な気持ちになることが増えました。(50代・正社員)
- ・配偶者も在宅勤務が多くなり、2人揃って在宅のときはストレスがたまります。こちらは電話会議しているのに自動掃除機をオンにしようしたり、お昼を作らなくてはいけないうのかというストレスなど。ので、在宅はなるべく重ならないようにしています。一方で在宅勤務が増えて、子供の習い事の送迎ができるようになり、学童に預けなくてもよかったので、その心理的不安は解消されました(学童内のトラブルがあったため)。(40代・正社員)
- ・65歳以上なのでコロナ感染のリスクを避けようと、仕事で必要のある時以外は外出しない毎日である。人に会って談笑することもなく、体を動かすことも減っているので、心身が不活発で不健康だと感じつつも生活を改善できない。(60代・その他)
- ・やっと今の生活になれてきているので、再度出勤するようになるなど、変化させられると困る。夫は人と会えずストレスが溜まっていてイライラしている。私は子供関係のコミュニティがあるため、家庭と仕事以外に関わりがあるが、夫は仕事と家庭の行き来だったため、人との関わりが少なくなっていると思う。(30代・正社員)
- ・とにかく夫の在宅勤務によって、お弁当を作らなくてはならなくなったこと。自分が仕事から帰ってきても、夫は家で夜まで会議をしていたり、仕事をしていたり、電話がかかってきたりと私の休まる時間がなく、本当につらいです。仕方ないことですが、こんなに在宅勤務がストレスの原因となるとは思ってもいなかったもので、つらいです。(40代・正社員)
- ・夫の在宅ワークにより(夫は休みの日も家事をやらない為)更に休める時間が無くなりました。収入が減った上に夫の食事代がかかって来てキツイですが 仕方がないことと、ひたすら耐えています。(40代・家事専業)
- ・私は困り事は特段ありませんが、同僚から、ご主人が完全在宅になりストレス増加という話も聞きました。食事に関する家事も増え、肉体的、精神的にも負荷が増えているのでしょうか。家族との適度な距離感、自分がひとりになる時間も大切だと思います。また、長年美容師をしている人からは、美容師をしてゴールデンウィークに休んだことが無かったので、不謹慎かもしれないけれど、とっても嬉しく幸せだったということも伺いました。(50代・非正規)
- ・趣味の旅行や観劇等プライベート外出の自粛による自身のストレス発散方法が7割消失しました。同世代が我慢しているものの、蔓延している都内や重症化しやすい高齢者層が軽率に遠出を計画していると聞くと、他人と関わりを持つことが嫌になり物事へ取り組むための気力が酷くそがれるようになりました。(20代・正社員)
- ・家族と同僚とパートナー以外とほぼほぼ会う事が無くなりました。元タインドア派なのでストレスではありませんが、お互いを思って複数人での旅行や食事などの面会を極力無くす新しい生活スタイルでは人間関係がどんどん薄くなり残念です。(30代・正社員)

【介護に関すること】

- ・親たちの介護が始まり、時間を取られるようになっていくが、一方で仕事も忙しくなり責任も重くなっている。介護と仕事のバランスをどう取っていくかが悩みである。また、趣味や友人との交流といった自分の人生の楽しみも失いたくないと考えている。（50代・正社員）
- ・現在要介護1の親の介護の負担が増えることに不安を感じている。（50代・自営業）
- ・初期の認知症の母がこの夏の暑さとコロナにより外出が減り、日中一人な為、せめて週末は連れ出したかったのですが気軽に出かけられず、病気の進行が加速してしまわないか心配でした。恐れすぎて自粛ばかりだと認知症が進んでしまう気がするので、コロナは上手に恐れ上手につきあい上手に出かけて、楽しく暮らさせてあげたいと思っています。（50代・正社員）
- ・介護と仕事の両立の難しさと、その負担増を自らの身で体感していました。まだまだ女性が継続的に活躍できる社会には現状ほど遠く感じている。高齢者介護、支援は今後の高齢化社会における大きな課題であり、支援の時期を迎えるであろう年代に向けた講習会等の実施は行政主導で早い段階でもっと手の届く所に位置付けた何かが必要と考える。これは男性に向けてもするべきであり、女性への負担比率を引き下げる事も必要ではないかと思う。（50代・自営業）

【職業・転職に関すること】

- ・求人状況の減少が心配です。この後、就職できるか、年齢的にも深刻です。（50代・非正規）
- ・今までは、パートでも十分出勤できていたし、働き方として満足していたけれど、日数を減らされてから「パート」という働き方の不安定さを実感した。（30代・非正規）
- ・同じ仕事をしているのに何故、正社員と非正社員とに分けられるのでしょうか… そしてもちろん給料の差があります。（50代・正社員）
- ・コロナだろうがなんだろうが農作物は待ってくれない。自粛しなくてはいけないのは分かっているけれどそれが出来る職種ならいい。出来ない職種は自己責任なのか。常に葛藤しています。（40代・自営業）
- ・コンビニの店員なので 仕事は変わらず。学生さんのアルバイトが もう少しシフトに入ってくると助かるのだけれど。的外れな意見でごめんなさい。（50代・非正規）
- ・学校などの臨時休業の際、休む職員が多くなると子育てしていない我々の負担が増えた。また医療、福祉施設に勤務していると高齢者への配慮の為、勤務している我々は制限される事が多い上、テレワークなどが出来る環境でもない為、休むことも他の職員の負担になる事から精神的、身体的ダブルで辛いです。（40代・正社員）
- ・介護施設勤務のため、感染者が出た場合、看護師の立場なので職場にずっといなければならなくなり、自宅には帰れないのでは？その場合家のことは？また、実際職場での対応にも全面的に不安です。（40代・非正規）

【その他】

- ・単身や介護者を抱えた者にとっては、働きながらマスクや消毒液などを入手することは、非常に困難であった。（家族で手分けして店頭に並んだりすることができない、またマスク入荷時期の情報などが入らず途方に暮れた。最後は諦めた。）（50代・非正規）
- ・家族の勤務形態がバラバラになり、生活が定まらない。（20代・非正規）

- ・マスク着用を強要されること。（30代・正社員）
- ・マスクをしていると、肌トラブルでストレスです。（50代・正社員）
- ・シトラスリボンを知って、明日は我が身か！を痛感しています。自分に出来る事、一生懸命勇んで務めたいと思います。（50代・非正規）
- ・運動する機会が減ってしまったので、集まって、運動する場や機会を増やしてほしい。（60代・自営業）
- ・コロナの影響で会社の売上が数十億円落ちたとの説明があり、ボーナスも支給されるか不明な中で子どもの難病が見付かり、治療費が高額なため日々の生活もままならなくなりました。父はアルツハイマーで徘徊が酷く、母は統合失調症のためまともな会話も出来ず、施設に入れることも経済的に難しく困っています。コロナさえなければ残業だって出来ていただろうし、毎月3～5日も休業にならなかつただろうし、給料カットだってされずに済んだはず。同僚は給料が10万円以上減ったと嘆いていました。私はシングルマザーで、家の働き手が私一人のため、元々生活苦だったのが余計に苦しくなりました。一日も早く経済が、私たちの生活が元に戻って欲しいと切に願っております。（40代・正社員）
- ・未だ三密を避ける状況の為、グループでの交流や出会いは減っていると思う。仕事も在宅が増え雑談も減っている為、プライベートで日頃の出来事などを気軽に話し合える仲間の存在が大事だと感じている。最近はオンラインを活用する機会も増えている為、有効活用していけたら良いと考えていて、現に自分は縁もありオンラインでセミナー等の機会もあり精神的にも無意識のうちに支えられているように感じている。（30代・正社員）
- ・（コロナ禍における）冠婚葬祭における組内や親せきの考え方の違い。（50代・家事専業）

「新型コロナウイルス禍が女性に及ぼす影響について」アンケート

みなさまのご意見を参考にさせていただきたく、アンケートへのご協力をお願いします。

【調査期間】 令和 2 年 10 月 10 日（土）～令和 2 年 10 月 26 日（月）

■調査目的

新型コロナウイルスの感染拡大により、4 月 16 日に緊急事態宣言が全国に拡大され、4 月 18 日より栃木県が緊急事態措置となりました。不要不急の外出自粛要請と併せて、学校の休校や在宅勤務、店舗や施設の休業等、生活に大きな影響を及ぼすことになり、生活不安やストレスの増加、またそれらに起因する DV の増加が懸念されるなどが問題になりました。5 月 6 日栃木県の緊急事態措置は解除されたものの、新しい生活様式の実践や働き方が見直され私たちの生活は大きく変化しました。

その中で浮き彫りとなってきた課題の一つが、新型コロナウイルス禍が女性に及ぼす影響です。女性は非正規で働いている場合が多く、職を失いやすいうえ、学校の閉鎖や保育園の受け入れ縮小により、子育てや家の中の仕事を一気に担うことが多くなりました。また、今までとは異なるワークライフバランスの在り方や心理的ストレスとどう向き合っていくかも問題となっています。

栃木県女性の生活や心身にどのような影響を及ぼした（している）のか現状を把握し、今後の生活や働き方を展開するにあたって、必要な取組みは何なのかを導き出すことを目的とし、新型コロナウイルス禍が女性に及ぼす影響についてアンケートを実施します。

■調査方法

Web 調査（10 問 5 分程度） （株式会社マクロミル Questant）

なお、アンケートの回答は統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として公表されることはありません。

■対象

栃木県内在住の女性

■アンケート実施者・協力機関

実施者：宇都宮大学ダイバーシティ研究環境推進本部 特任助教 川面充子

協力機関：栃木県、公益財団法人とちぎ男女共同参画財団、栃木労働局雇用環境・均等室

■下記の URL、または右の QR コードを読み取り、アンケートにご回答ください。

<https://questant.jp/q/8SD4W056>



■11 月 20 日フェスタ in パルティにてアンケート調査中間報告

2021 年 3 月 アンケート調査結果・分析報告、情報誌パルティ掲載

■アンケートに関するお問い合わせ先

宇都宮大学ダイバーシティ研究環境推進本部 特任助教 川面充子

電話：028-649-5151／メール：mkawazura@cc.utsunomiya-u.ac.jp

Q1 年代

☐①10代 ☐②20代 ☐③30代 ☐④40代 ☐⑤50代 ☐⑥60代 ☐⑦70代～

Q2 家族形態

- ☐①1人暮らし
☐②本人と親
☐③配偶者・パートナーと2人
☐④配偶者・パートナーと子ども（末子が小学生以下）
☐⑤配偶者・パートナーと子ども（末子が中学生以上）
☐⑥母親（本人）と子ども（末子が小学生以下）
☐⑦母親（本人）と子ども（末子が中学生以上）
☐⑧三世代世帯（親と子と孫）
☐⑨その他（ ）

Q3 職業（新型コロナウイルスの影響で仕事を辞めた方は、辞める前の職業）

- ☐①勤め人（正規社員・職員）
☐②勤め人（臨時・パート・アルバイト等非正規社員・職員）
☐③自営業主または家族従業員
☐④家事専業
☐⑤学生
☐⑥無職（家事専業を除く）
☐⑦その他（ ）

Q4 Q3で「①、②、③」のいずれかに回答された方のみお答えください。コロナ禍前と 現在とを比較し、新型コロナウイルスの影響により働き方に変化はありましたか。【複数回答可】

- ☐①就業日数が増えた
☐②就業日数が減った
☐③1日の就業時間が増えた
☐④1日の就業時間が減った
☐⑤在宅勤務（テレワーク）が増えた（出勤との併用含む）
☐⑥緊急事態措置期間（4月18～5月6日）は在宅勤務（テレワーク）だったが
現在は通常勤務に戻った
☐⑦時差出勤になった（増えた）
☐⑧仕事を休んでいる（自己都合）
☐⑨仕事を休んでいる（会社都合）
☐⑩仕事を辞めた（自己都合）
☐⑪仕事を辞めた（解雇、雇い止め、倒産等）
☐⑫特に変化はない

☐⑬その他（下記に詳細をご記入ください）

Q5 Q4で「①、②、③」のいずれかに回答された方のみお答えください。 コロナ禍前と現在とを比較し、収入に影響はありましたか。

☐①収入が増えた

☐②収入が減った

☐③収入がなくなった

☐④変わらない

☐⑤その他（下記に詳細をご記入ください）

Q6 緊急事態措置期間（4月18日～5月6日）、コロナ禍前に比べ、あなたの生活や行動、心身に変化がありましたか。【複数回答可】

☐①家事・育児・介護の負担が増えた

☐②家事・育児・介護の負担が減った

☐③仕事や勉強に集中できなくなった（不安があった）

☐④仕事や勉強に集中できた

☐⑤子ども・被介護者を叱ることが増えた

☐⑥子ども・被介護者を叱ることが減った

☐⑦配偶者・パートナーとの関係が悪くなった

☐⑧配偶者・パートナーとの関係が良くなった

☐⑨人との交流機会が減った

☐⑩外出できないことに対するストレスを抱えている

☐⑪生活に対する不安を抱えていた

☐⑫感染への不安を抱えていた

☐⑬特に変化はなかった

☐⑭その他（下記に詳細をご記入ください）

Q7 現在、新型コロナウイルスの影響で、コロナ禍前に比べ、あなたの生活や行動、心身に変化はありますか。【複数回答可】

- ☐①家事・育児・介護の負担が増えている
- ☐②家事・育児・介護の負担が減っている
- ☐③仕事や勉強に集中できなくなっている（不安がある）
- ☐④仕事や勉強に集中できている
- ☐⑤子ども・被介護者を叱ることが増えている
- ☐⑥子ども・被介護者を叱ることが減っている
- ☐⑦配偶者・パートナーとの関係が悪くなっている
- ☐⑧配偶者・パートナーとの関係が良くなっている
- ☐⑨人との交流機会が減っている
- ☐⑩外出できないことに対するストレスを抱えている
- ☐⑪生活に対する不安を抱えている
- ☐⑫感染への不安を抱えている
- ☐⑬特に変化はない
- ☐⑭その他（下記に詳細をご記入ください）

Q8 今、困っていることは何ですか。【複数回答可】

- ☐①自分の仕事や生き方
- ☐②配偶者・パートナーとの関係
- ☐③家族（配偶者・パートナーを除く）との関係
- ☐④家族以外との人間関係
- ☐⑤暴力被害・性暴力被害
- ☐⑥自分自身や世帯（家族）の経済面
- ☐⑦自分自身や家族の健康面
- ☐⑧特にない
- ☐⑨その他（下記に詳細をご記入ください）

Q9 コロナ禍の中、女性に対する支援としてどのような施策が必要と思われますか。【複数回答可】

☐①仕事や生活、家庭等に不安がある際の適切な相談先に関する情報提供

☐②電話による相談

☐③面接による相談

☐④メールや SNS 等を活用した相談

☐⑤オンライン面接（ビデオ通話）による相談

☐⑥同じ悩みを持つ人同士が対面で交流できる場の提供

☐⑦同じ悩みを持つ人同士がオンライン上で交流できる場の提供

☐⑧オンライン配信によるセミナー

☐⑨テレワークできる場の提供

☐⑩特になし

☐⑪その他（下記に詳細をご記入ください）

Q10 その他、ご意見等がありましたらご記入ください。

ご協力ありがとうございました。